

卒業生から

■川口陽子さん(04年卒)

留学先の LANGUAGES INTERNATIONAL(ニュージーランド)からの便りです。



川口陽子さん(写真前列中央)

私のクラスには、サウジアラビア、中国、韓国、ブラジル、スイス、ドイツ、台湾、フランス、ロシアからの留学生がいます。いろんな感性を持った友達がたくさんできて、とても良い刺激になっています。

人生はカードゲームのようなあと、ふと感じる事があります。良いカードを引くためにどうしたらいいだろうと色々考え、思いっ切り限りの事をやってみます。時には思い切った勇気が必要だったり、長い時間をかけて準備するといった骨の折れるような事もありますが、今の私の行動が次のカード「チャンス」にどう繋がっていくのが楽しみです。

時として遠く離れた故郷が恋しくなったりもします。そんな中、宝塚造形芸術大学の後輩たちからの手紙がとても励みになります。内容は将来の夢や憧れのアーティストの事、悩みなど、また時には後輩たちが自らの作品の写真を送ってくれたりすることもあり、日本とニュージーランド、こんなに離れているのに自分を頼ってきてくれるなんてうれしい限りです。

私はこの大学でたくさんの素晴らしい宝物をもらったなあという気持ちです。自分がかんがってアーティストへの道を作ることが後輩たちの励みになるんじゃないかと思うと、やる気が沸いてきます。来春に画集を出す事も、後輩たちに良い刺激になれば幸いです。私は、夢だけはしっかり見えています。その夢に向かってがんばれるのは、こうして手紙を出せる先生がいらっしゃる、はげましの言葉をくれる後輩あってこそだと感じています。宝塚造形芸術大学に来て良かった。たいへん感謝しています。

宝塚造形芸術大学に在籍していたころお世話になっていた嶋本先生の勧めで、アメリカのニューヨークのアート団体で2ヶ月間アート活動するために、今あれこれと準備を進めています。コミュニケーションで高い英語力が必要なので不安はありますが、楽しみです。同時に、今、文芸社と協力して初の自分の画集を出版するために奮闘しています。

(文・川口陽子さん)



作品「fairy's-town」

■長尾敏篤さん(01年卒)

「神戸モザイク・アートインパルス 2004」神戸を代表するハーバースポットに、巨大アートを制作

平成16年10月25日みなとまち神戸を象徴するエリア、ハーバランド・モザイクに縦2m×横25mの巨大アートを登場しました。本学で1年半の留学を経た長尾敏篤さんにより進められたこのプロジェクトは、モザイク2Fの空きテナント大型窓枠を利用してアートという付加価値を取り入れることにより、エリアブランドの向上を図ろうとする主旨に賛同いただき実現したのです。総制作期間2週間足らず、また個人による絵画芸術表現の作品発表としては兵庫県下最大級と目される巨大アートの迫力を、ぜひ御来街の上、生で体感してください。本作品は、次期テナント入居決定(約半年以上先)までの不定期間設置されています。



■大学院修士課程修了制作展・論文公聴会のお知らせ

- 会場: 宝塚造形芸術大学 宝塚キャンパスマルチメディアタワー
- 論文公聴会 2005.2.10(木) 10:00~
- 修了制作展 2005.2.7(月)~14(月)



展覧会のお知らせ

■宝塚造形芸術大学展

会場: 大阪市立美術館

2005年3月1日(火)~6日(日)

美術学科全体による春の造形展と卒業制作展の合同展覧会です。

美術史・美術理論・洋画・日本画・彫刻コース

■啓蟄展(彫刻コース)

会場: パナホーム本社ビル

ロビー(千里中央)

2005年3月8日(火)~13日(日)

彫刻コース特別展覧会です。



明けましておめでとうございます。

戦後現代美術の展覧会

痕跡 戦後美術における身体と思考

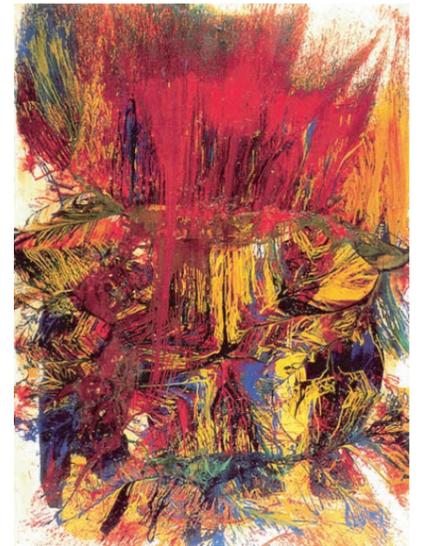
●戦後現代美術における集大成の展覧会。美術学科 嶋本昭三教授の作品が展示されています。

美術作品は常に作家によってなされたなにごとの痕跡として実現されています。しかしこの当たり前の事実には私たちは目を閉ざしてきました。切り裂かれたキャンバス、飛び散った塗料の跡、画面に残された作家の手形。1950年代以降、現代美術の主流を占めるイメージの多くが何かの似姿ではなく因果関係に基づいて成立し、表現の場に身体や物質が生々しく刻印されていることは決して偶然ではありません。この展覧会では「痕跡」という独自の観点から戦後美術の展開を検証します。欧米における抽象表現主義、ネオ・ダダ、ウィーン・アクションイズムやコンセプチュアル・アート、日本においては具体美術協会や読売アンデパンダン展周辺の作家、さらにもの派とそれ以降、作家としても表現としても多様きわまりない戦後美術の様々な動向に新しい角度から光をあてる試みです。(京都国立近代美術館)

■会場

京都国立近代美術館 2004.11.9(火)~12.19(日)

東京国立近代美術館 2005.1.12(水)~2.27(日)



嶋本昭三 作品 1955 兵庫県立美術館



嶋本昭三 1961-1 1961 大阪市立近代美術館建設準備室

飛び散った絵の具やキャンバスに青くなすりつけられた人のかたち、紙の上に残された自動車の車輪の跡。第2次大戦後、様々の斬新な表現が美術作品として登場します。今日、画期的な表現として高く評価されるこれらのイメージは、肖像画や風景画のようにものに似るのではなく、なにごとの結果として意味を与えられているといえるでしょう。この展覧会ではこのようなイメージに「痕跡」という名を与え、戦後美術を新しい角度から見直してみたいと考えます。

1950年代から70年代後半まで、およそ30年にわたる美術の流れの中に「痕跡としての美術」は多様に姿を変えて登場します。そして日本のみならず、アメリカやヨーロッパの戦後美術においてもこのような美術の系譜は脈々と続いています。日本における具体美術協会の活動、読売アンデパンダン展周辺の作家たち、もの派の動向、あるいはアメリカにおけるネオ・ダダやボディ・アート、コンセプチュアルアート、そしてヨーロッパにおけるウィーン・アクションイズム。国籍も時代も表現も全く異なったこれらの動向を「痕跡」という視点から捉える時、現代美術の思いがけない同時性や共通性、表現の多様性と独自性が明らかになるように思います。

ジャクソン・ポロックやアンディ・ウォーホルといったよく知られた作家から、ヘルマン・ニッチやアナ・メンディエッタといった日本ではほとんど紹介されなかった作家まで日本、アメリカ、ヨーロッパのおおよそ60人の作家、120点の作品で構成された本展覧会は美術という営みを新しい角度から問い直す、得がたい機会となることでしょう。

(本展覧会図録より)

展覧会・公募

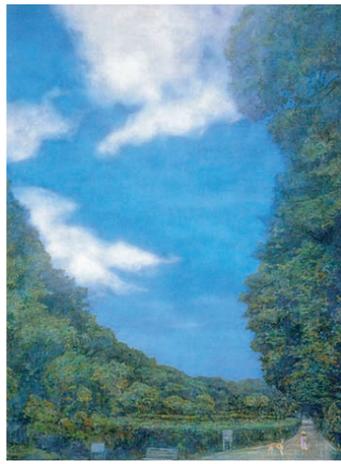
■第36回 日展 東京都美術館 2004.11.2(火)~24(水)/京都市美術館 2004.12.18(土)~2005.1.18(火)/大阪市立美術館 2005.2.26(土)~3.21(月)



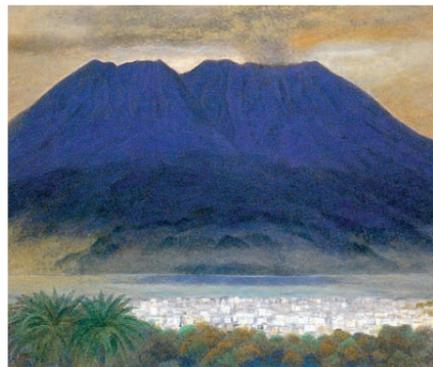
特選「底引の網」
山田 毅 日本画講師



「行く秋」
曲子明良(委属) 日本画教授



「晴れ間」
西敏彦 日本画講師



「桜島」
福本達雄(評議員) 大学院サテライト教授

■第3回 あさご芸術大賞展
2004.10.24(日)~11.28(日)
あさご芸術の森美術館



「majonica」
入選 久保健史(97年卒)



「花鳥風月」
入選 杉本侑亮(彫刻4年)

■浅野雄太(彫刻2年)

■第50回豊中市美術展
2004.10.30(土)~11.4(木)
美術協会賞「流体」



「流体」

■第39回伊丹市展
2004.10.31(日)~11.7(日)
奨励賞「一つから二つ」

■第2回とよの町
ヤングアートライブ
2004.10.7(木)~9(土)
敢闘賞「伸化」

■第16回ヤングジャンプGAG新人賞
永幡裕希(彫刻4年)が受賞しました。



■Year2004きゃらコングランプリ
上岡秀拓(助手)が受賞しました。



「やさちち」
キャラクターアニメーション賞



「ごろー」
コミカルキャラクター賞

■櫻井麻衣(彫刻3年)

■ピアレール・チェコンテスト
2004.8.28(土)
優秀賞「せせらぎ」



「せせらぎ」

■ニッケ 私の羊くんイラスト大賞



私の羊くん賞
上岡秀拓(助手)

展覧会・活動



■前川勝裕油彩画展(絵画4年)
2005.1.22(土)~2.3(木)
篠山市 丹波の森公苑 展示ギャラリー



■ラベンダーアートフェスタ
上岡秀拓(助手) 出展
2004.11.23(火)~12.12(日)
西宮市 カフェテラスラベンダー



■葉山恭子展(01年卒)
2004.11.1(月)~6(土)
大阪市北区 ギャラリー白3(ハク)



■松田明久個展(洋画2年)
「さびさび展」
2004.10.11(月)~24(日)
神戸市中央区
Art Cafe Chim chim cherry

■第4回 全国障害者芸術・文化祭
ふれ愛のじぎく兵庫大会 オブジェ・フラッグ展

柳本恵子さん(旧姓・大枝恵子 97年卒)
オブジェ・フラッグ展を開催されました。
2004.12.3(金)~5(日) 神戸市 ファッション美術館1F ロビー



■エジンバラフェスティバル
前田真実子さん(03年卒)が参加しました。
2004.8.8(日)~30(月)
写真は前田さんの作品。



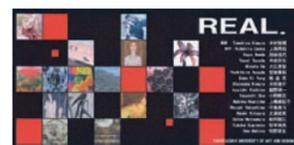
■第1回 金鳥の会(きんうのかい)
村田大輔(美術史・美術理論講師)
らによるグループ展
2004.11.17(水)~28(日)
池田市 画廊ぶらんしゅ



村田先生の作品

■REAL展

美術学科08や学生らが
合同で展覧会を開催しました。
2004.12.1(水)~5(日)
兵庫県立美術館原田の森ギャラリー



■出品者

[大学院]
池田佳代
寺田弥生

[絵画4年]
北浦直美
大江美智
越野球一
上嶋麻記子
松村聡江
中島真弓

[洋画2年]
木村俊介
権基英

[彫刻4年]
小野剛志
杉本侑亮
安田喜裕

木村智博(講師)
上岡秀拓(助手)

[日本画2年]
牧野菜生



■井階甲基さん(彫刻2年)は、プロボクサーです。



[プロとしての成績は2勝1分、アマでは6戦全勝]

2004年12月8日にトリプレックスボクサーズがボクシングの聖地、大阪中央公会堂大ホールで30年ぶりに復活開催されました。井階君は第一ラウンドが始まってから40秒で右ストレートから左フックでKO勝ちをおさめました。彼は、無口で物静かな男です。もちろん、なぜ「彫刻とボクシング」なのかは語ってくれません。しかし、彼のボクシングで鍛えられた、目・手・足、そして呼吸と精神力は、彫刻をやっていく上で最も大事な要素でもあるのです。おそらく、彼は気付かぬうちに彫刻家になる為の一番の要素を身に付けてしまったのです。1年次からの作品の中には、非凡なものまで見せられている教員としては、彫刻とボクシングの両方のプロとして大成してもらいたいと思っています。そして、逆に彫刻の中にもボクシングに必要な要素があるのを、彼自身が見つける時を楽しみにしています。(彫刻コース教授 西村公泉)



作品:井階甲基「螺旋」

■地球工房芸術祭 2004.11.23(火)・29(月)・12.2(木)

前衛芸術の嶋本昭三教授の紹介で、ネオジャパネスクを用いて舞台パフォーマンスをされている HIROAKI OMOTEさんのお手伝いに黒子のスタッフとして本学学生が参加しました。

参加学生 [洋画2年] 松田明久・田中聡・小國陽佑・中山萌・八木智弘
[日本画2年] 牧野菜生 / [絵画3年] 徳永智子



■美術学科学生が舗装道路でペインティングパフォーマンスを行いました。

2004年10月9・10日の両日に、兵庫県川辺郡猪名川町の町役場前に新しく舗装されたアスファルトの道路に、ペイントするパフォーマンスが行なわれました。地元子ども会をはじめ、本学美術学科の学生や、他大学・高校生といったアートを楽しみたい人々が集まりました。キャンパスとなる道路は、全長が200メートル。その区画の一部(12×6m)を、本学美術学科の学生らがペンキを使って思い思いに描きました。大きなキャンパスにたくさんのグループが集まってペイントするといったパフォーマンスは、学校の授業では得られない経験。また、こうした機会が訪れることに、参加した学生達は期待を膨らませています。

参加学生 [洋画2年] 松田明久・田中聡・小國陽佑・中山萌・古川光優
[美術史・美術理論2年] 福井彩恵 / [日本画2年] 牧野菜生

